

調査の概要

1 テーマ 「かながわの里山について」

2 ねらい

田畑、山林、農家集落で構成される里山の景観は、多くの人々にふるさとをイメージさせるものであり、近年は、多様な動植物が生息、生育する環境、農村の伝統的な行事や技術を育む場としても、評価されるようになってきている。

神奈川県では地域や県民の貴重な財産である里山を保全・活用し、「農」・「林」の再生や地域の活性化を図ることを目標として、今年度から里山づくり推進事業を実施している。

そこで、今後の効果的な里山の保全・活用に関する施策の参考とするため、県政モニターから意見を聴いた。

3 対象 平成16年度県政モニター 400人(男性:200人 女性:200人)
[内訳] 郵送コース 200人(男性:95人 女性:105人)
インターネットコース 200人(男性:105人 女性:95人)

4 調査項目 (1)「里山」の周知度について
(2)里山のイメージについて
(3)里山に対する関心について
(4)里山の役割、機能について
(5)里山保全について
(6)里山における環境教育について
(7)里山における活動への参加経験について
(8)里山における活動への参加意向について

5 調査期間 平成17年1月25日(火)～2月7日(月)まで

6 調査方法 郵送による配布・回収、インターネットによる送信・受信

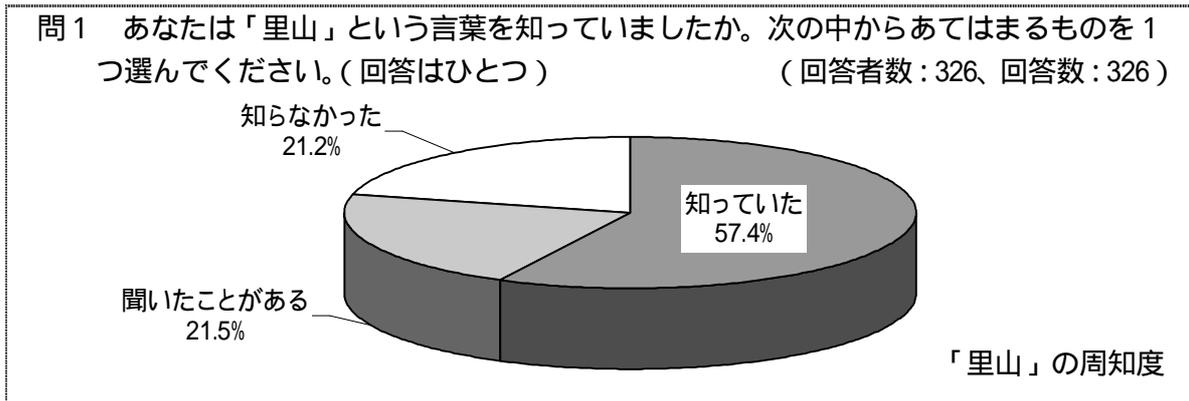
7 回収状況 県政モニター400人のうち326人から回答(回収率は81.5%)
[内訳] 郵送コース 166人(男性:79人 女性:87人)
インターネットコース 160人(男性:87人 女性:73人)

	郵送			インターネット			合計		
	モニター数(人)	回答者数(人)	回答率	モニター数(人)	回答者数(人)	回答率	モニター数(人)	回答者数(人)	回答率
男性	95	79	83.2%	105	87	82.9%	200	166	83.0%
女性	105	87	82.9%	95	73	76.8%	200	160	80.0%
合計	200	166	83.0%	200	160	80.0%	400	326	81.5%

注)「回答率」(%) = 「回答者数」÷「モニター数」×100

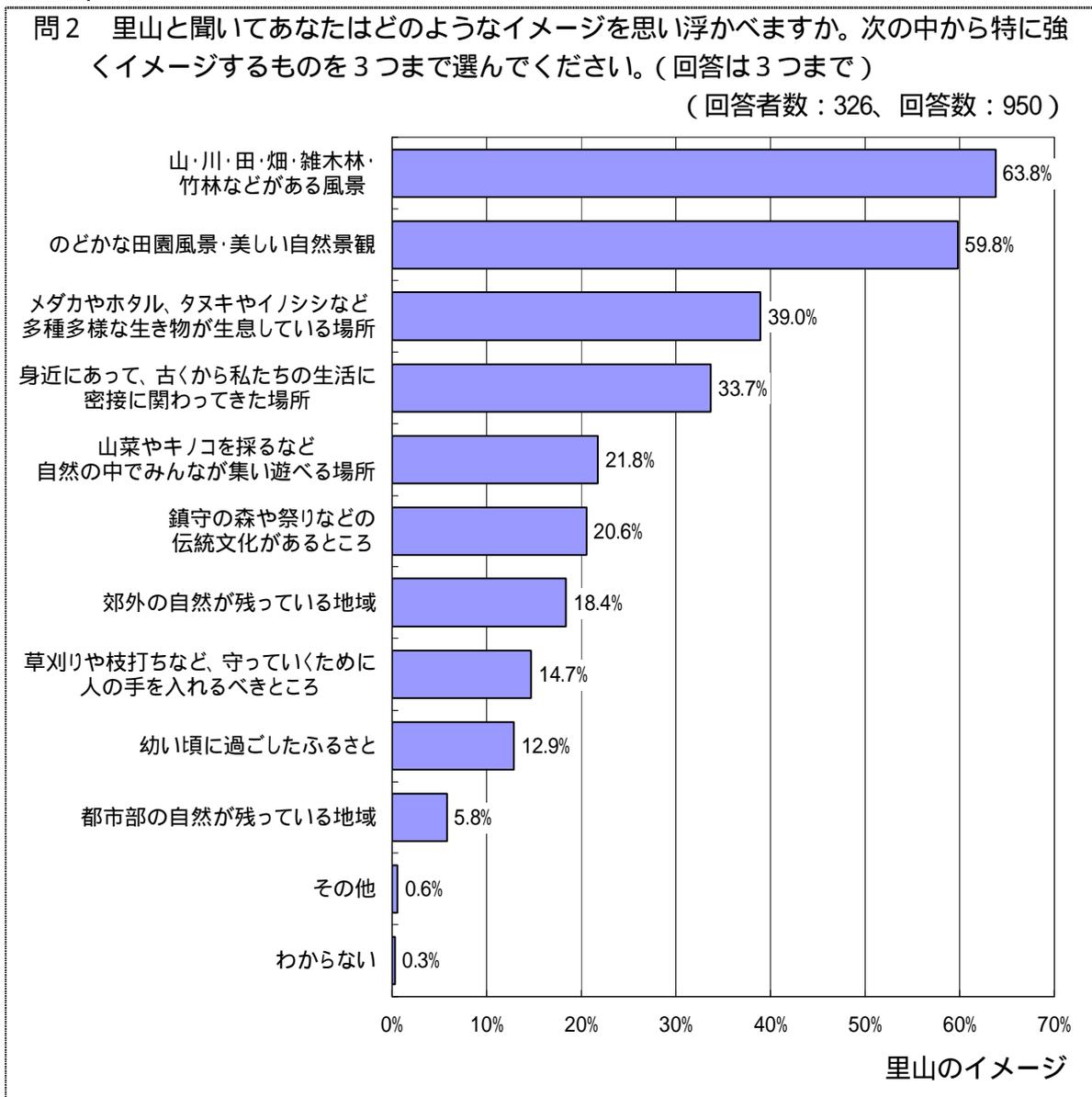
県政モニターの意見

1 「里山」の周知度について



「里山」という言葉について、「知っていた」(57.4%)と「聞いたことがある」(21.5%)をあわせた[知っていた](78.8%)は約8割となった。一方「知らなかった」(21.2%)は2割となった。

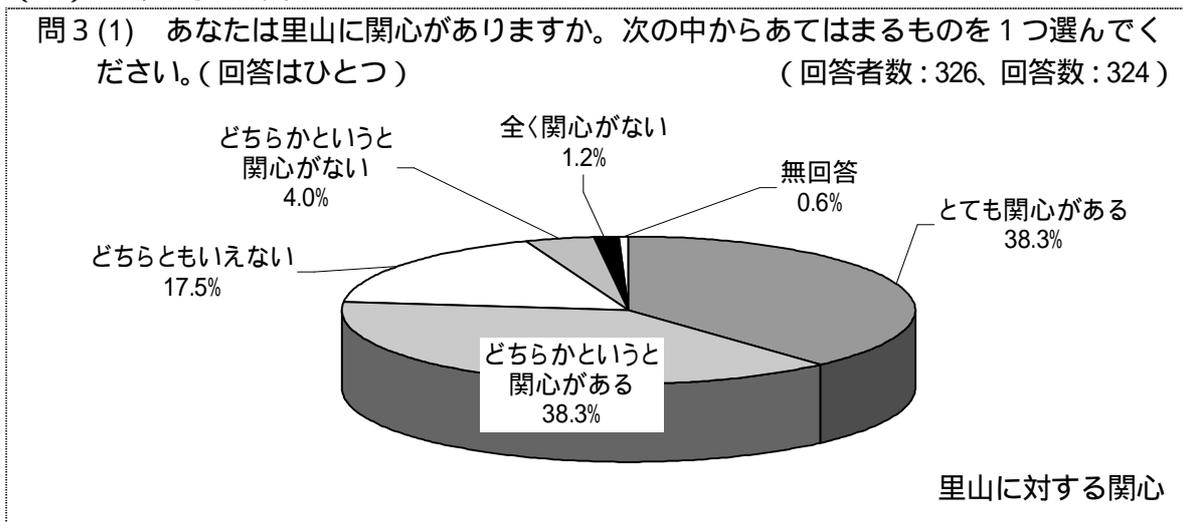
2 里山のイメージについて



里山のイメージは、「山・川・田・畑・雑木林・竹林などがある風景」(63.8%)が最も多く、次いで「のどかな田園風景・美しい自然景観」(59.8%)が多かった。

3 里山に対する関心について

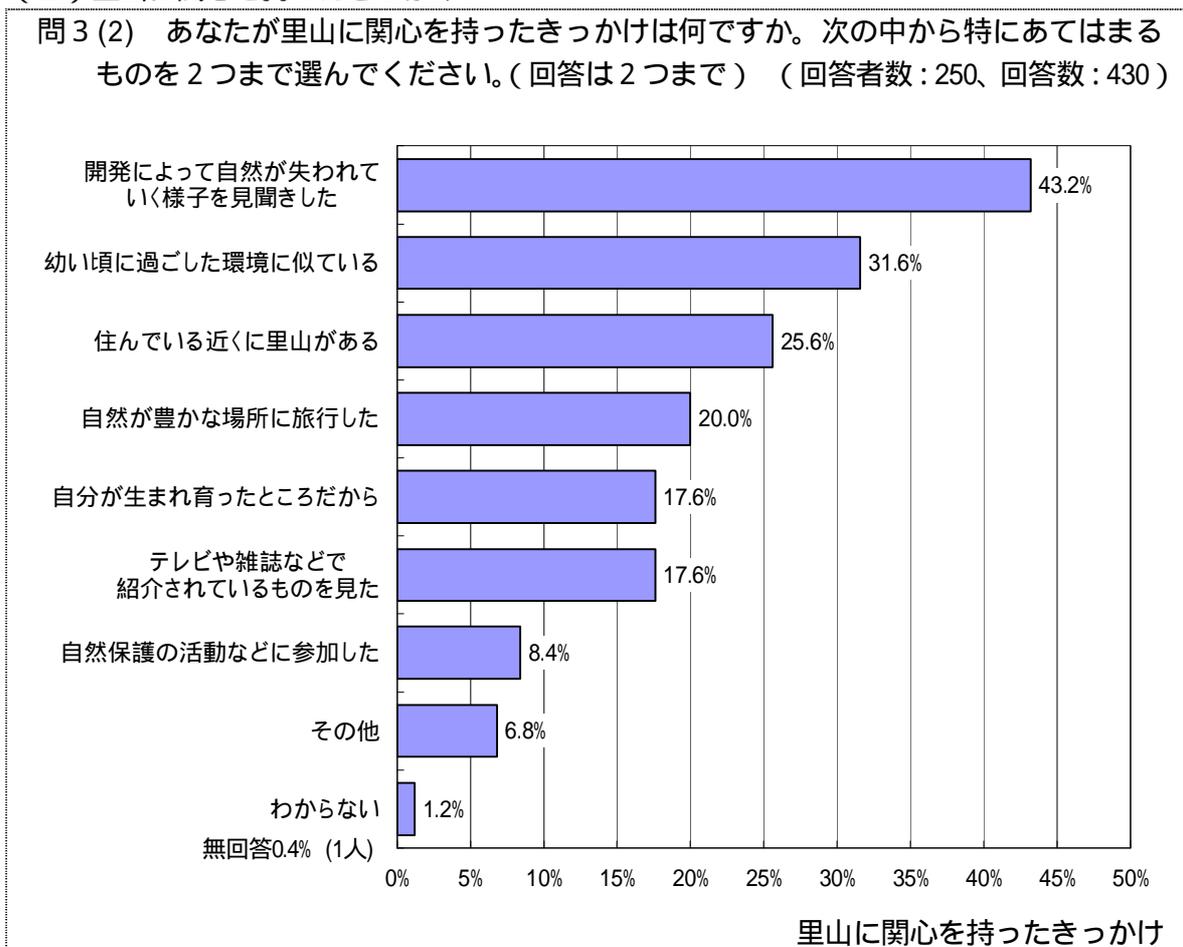
(1) 里山に対する関心について



里山に対して「とても関心がある」(38.3%)と「どちらかというに関心がある」(38.3%)をあわせた[関心がある](76.7%)は7割台となった。一方「全く関心がない」(1.2%)と「どちらかというに関心がない」(4.0%)をあわせた[関心がない](5.2%)は1割に満たなかった。

問3(1)で「とても関心がある」または「どちらかというに関心がある」を選んだ方のみ回答

(2) 里山に関心を持ったきっかけ



里山に対して[関心がある]と答えた250人に関心を持ったきっかけを尋ねたところ、「開発によって自然が失われていく様子を見聞きした」(43.2%)が4割台となり、次いで「幼い頃に過ごした環境に似ている」(31.6%)が3割であった。また、「住んでいる近くに里山がある」が25.6%で続いた。

〔問3(1)で「どちらかというに関心がない」または「全く関心がない」を選んだ方のみ回答〕

(3) 里山に対する関心がない主な理由

問3(3) あなたが里山に対して関心がないのはなぜですか。次の中から特にあてはまるものを2つまで選んでください。(回答は2つまで) (回答者数:17、回答数:30)

	回答人数
里山についての情報を見聞きしない	8
都会の景観や生活の方に興味がある	5
人が少ないなど、活気のないイメージ	5
近くに里山がないなど、身近に感じられない	5
忙しくて関心を持つ余裕がない	4
動植物などの自然の分野に関心がない	2
その他	1
合 計	30

里山に対する関心がない主な理由

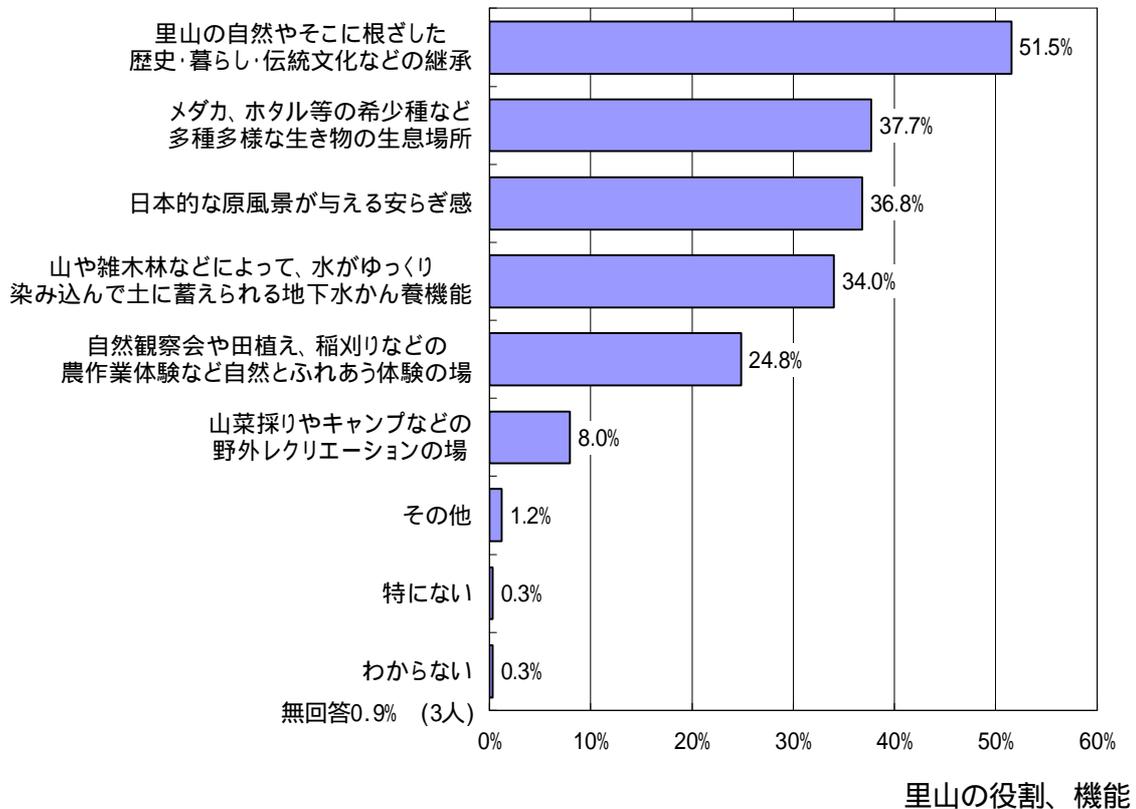
里山に〔関心がない〕と答えた17人に関心をもてない主な理由を尋ねたところ、「里山についての情報を見聞きしない」が8人であった。

〈ここからは全員の方が回答〉

4 里山の役割、機能について

問4 里山が持っている役割や機能で、特に重要と思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選んでください。(回答は2つまで)

(回答者数：326、回答数：635)



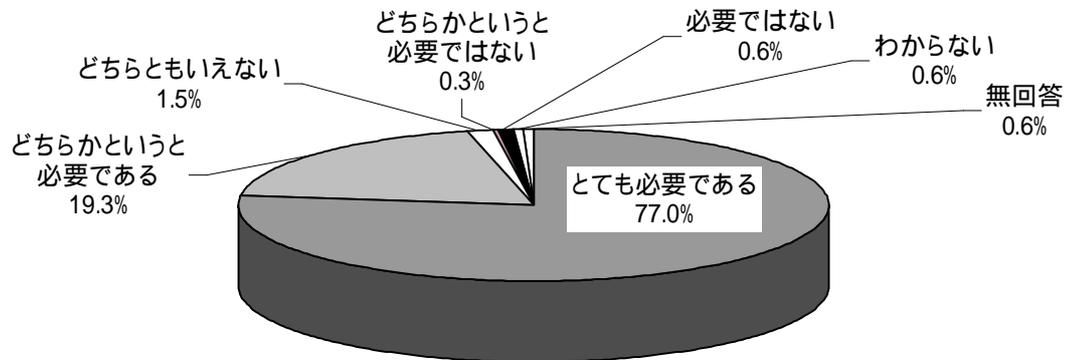
里山の持つ役割や機能で特に重要と思うものは、「里山の自然やそこに根ざした歴史・暮らし・伝統文化などの継承」(51.5%)が5割を超え最も多く、「メダカ、ホタル等の希少種など多種多様な生き物の生息場所」(37.7%)、「日本的な原風景が与える安らぎ感」(36.8%)、「山や雑木林などによって、水がゆっくり染み込んで土に蓄えられる地下水かん養機能」(34.0%)がそれぞれ3割台で続いた。

5 里山保全について

(1) 里山保全の必要について

問5(1) 今、多様な生き物が生息でき、環境について学ぶことができるなど、いろいろな機能を持つ里山を保全することが必要だと言われていますが、あなたはごどう思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(回答はひとつ)

(回答者数: 326、回答数: 326)

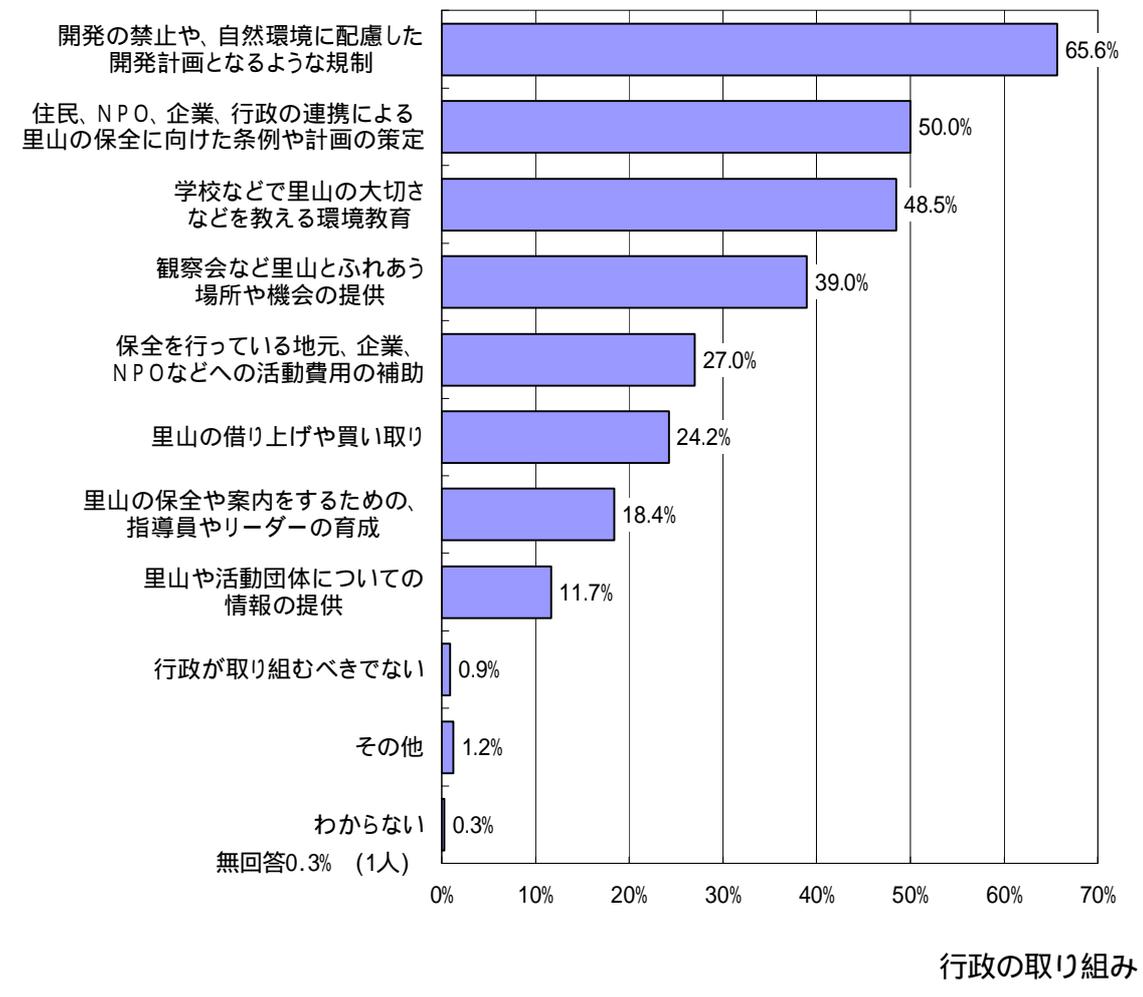


里山保全の必要

里山保全については「とても必要である」(77.0%)と「どちらかという必要である」(19.3%)をあわせた[必要である](96.3%)は9割台となった。一方「必要ではない」(0.6%)と「どちらかという必要ではない」(0.3%)をあわせた[必要ではない]は0.9%(3人)であった。

(2) 行政(県・市町村)の取り組みについて

問5(2) 里山を守るために、行政(県・市町村)はどのような取り組みを行えばよいと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(回答は3つまで)
(回答者数:326、回答数:935)

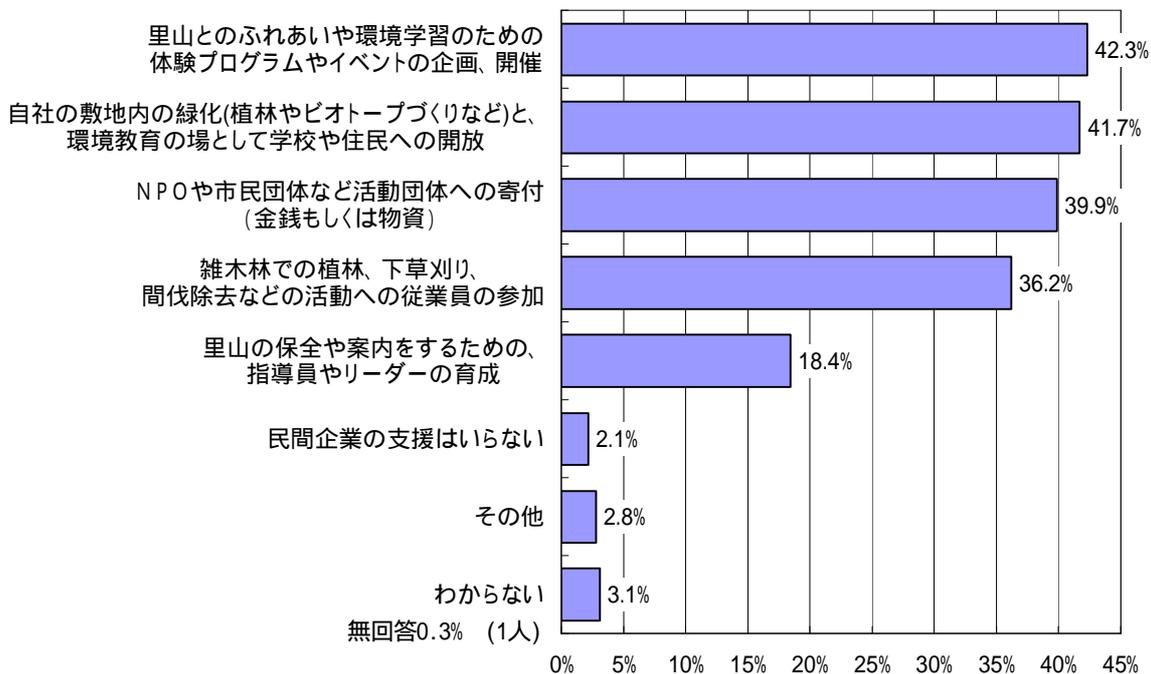


里山を守るために行政に望むことは、「開発の禁止や、自然環境に配慮した開発計画となるような規制」(65.6%)が6割台で最も多く、「住民、NPO、企業、行政の連携による里山の保全に向けた条例や計画の策定」(50.0%)、「学校などで里山の大切さなどを教える環境教育」(48.5%)、「観察会など里山とふれあう場所や機会の提供」(39.0%)が続いた。

(3) 民間企業の活動について

問5(3) 里山を守るために、民間企業に特にどのような活動をして欲しいと思いますか。
次の中からあてはまるものを2つまで選んでください。(回答は2つまで)

(回答者数: 326、回答数: 608)



民間企業の活動

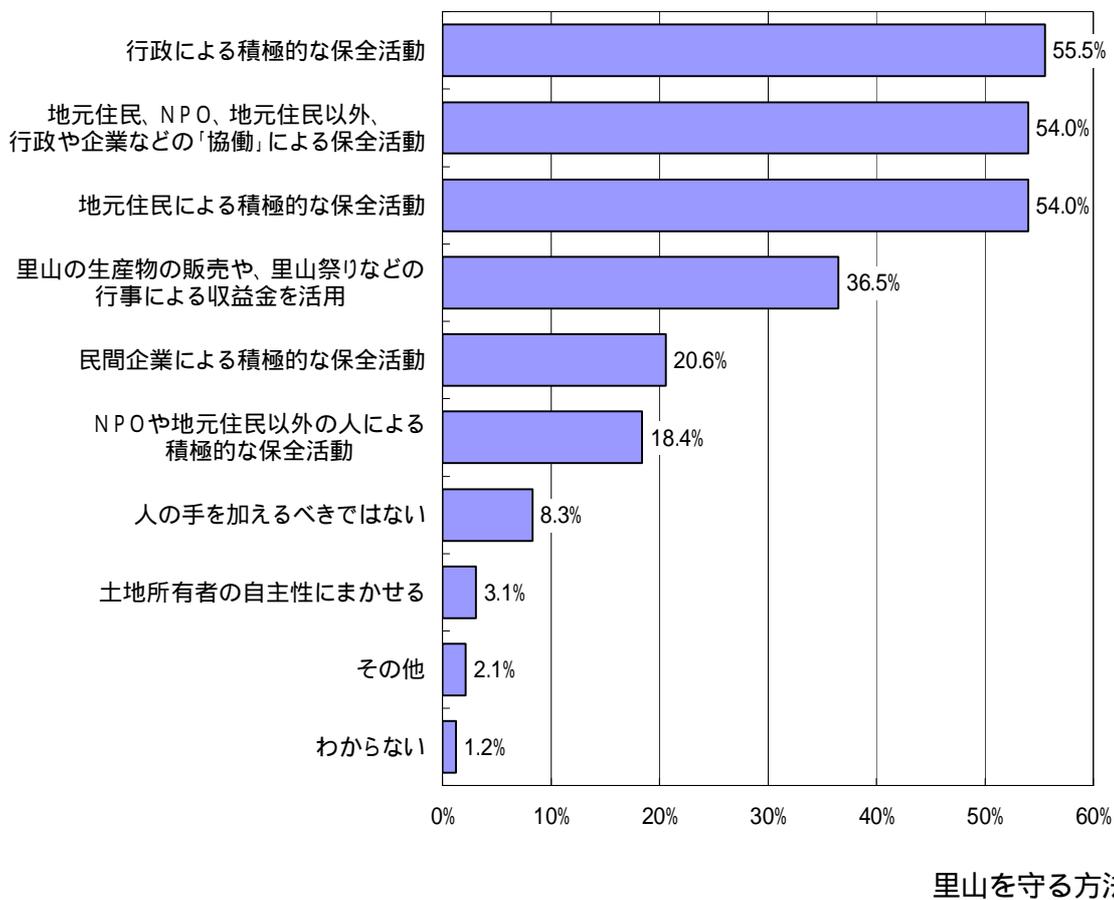
ビオトープ・・・もともとはいろいろな生き物が生息している自然の場所のこと。
人の手によって保護、復元された湖沼、草地、湿地なども含まれる。

里山を守るために民間企業に望むことは、「里山とのふれあいや環境学習のための体験プログラムやイベントの企画、開催」(42.3%)と「自社の敷地内の緑化(植林やビオトープづくりなど)、環境教育の場として学校や住民への開放」(41.7%)がともに4割を超えた。

(4) 里山を守る方法について

問5(4) 里山を守る場合は、どのような方法がよいと思いますか。次の中から特によいと思うものを3つまで選んでください。(回答は3つまで)

(回答者数: 326、回答数: 827)

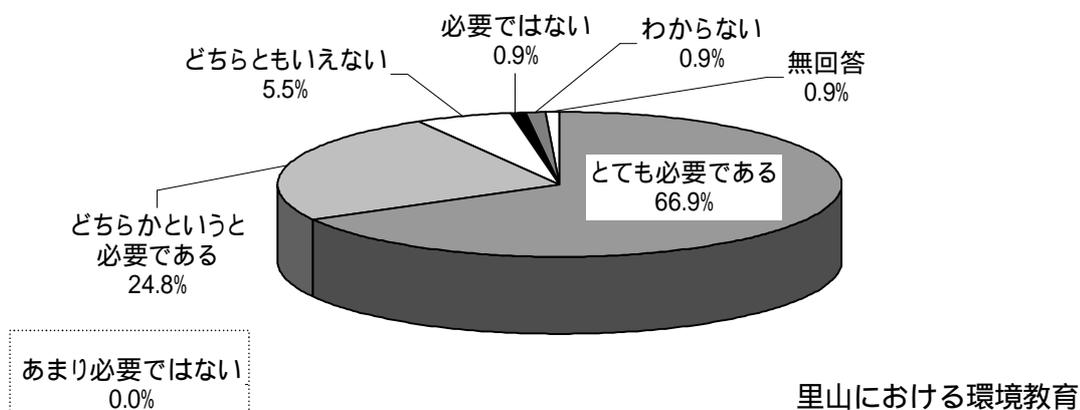


里山を守る方法については、「行政による積極的な保全活動」(55.5%)、「地元住民、NPO、地元住民以外、行政や企業などの「協働」による保全活動」(54.0%)、「地元住民による積極的な保全活動」(54.0%)がそれぞれ5割台が多かった。

6 里山における環境教育について

(1) 里山における環境教育について

問6(1) 環境を守る大切さを理解し、関心を深めるためには、里山における環境教育が必要だと言われていますが、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(回答はひとつ) (回答者数:326、回答数:326)



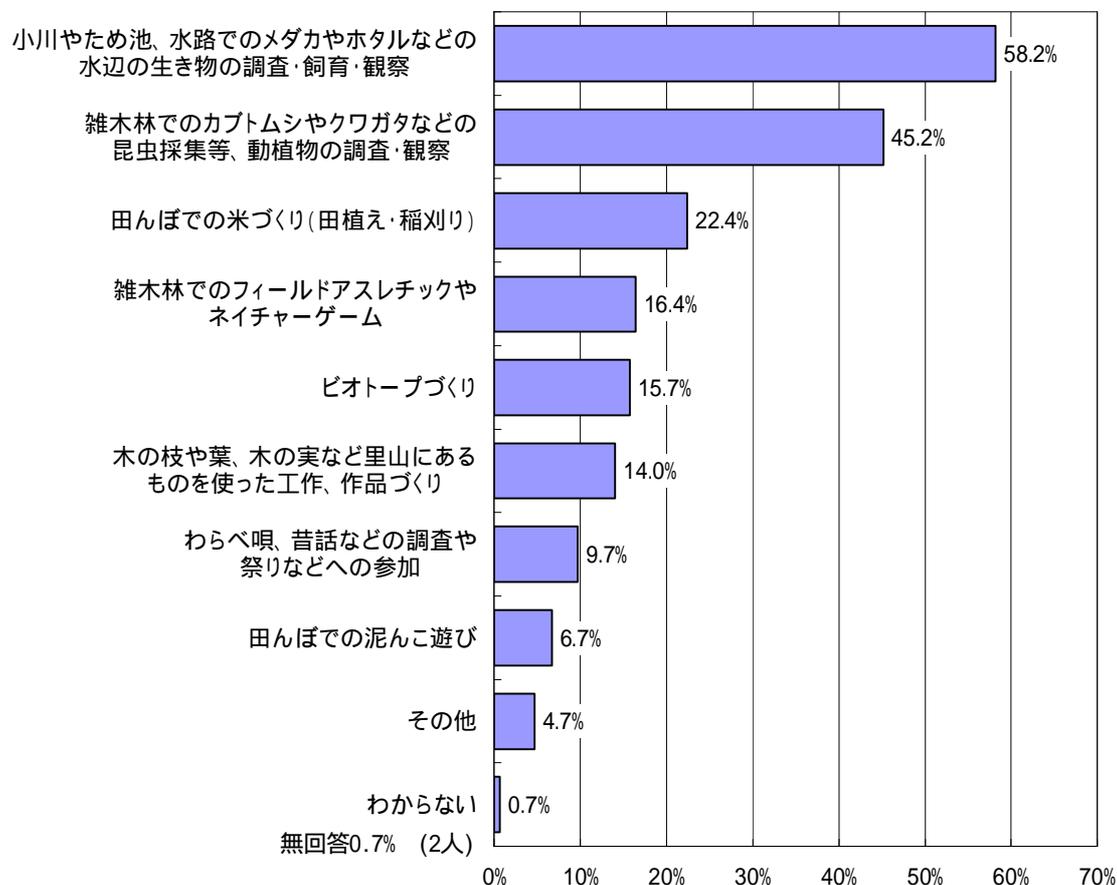
里山における環境教育は、「とても必要である」(66.9%)と「どちらかという必要である」(24.8%)をあわせた[必要である](91.7%)は9割に達した。一方「必要ではない」は0.9%(3人)であった。

問6(1)で「とても必要である」または「どちらかという必要である」を選んだ方のみ回答)

(2) 環境教育の内容について

問6(2) 里山において、どのような環境教育に取り組みばよいと思いますか。次の中から特によいと思うものを2つまで選んでください。(回答は2つまで)

(回答者数：299、回答数：579)



環境教育の内容

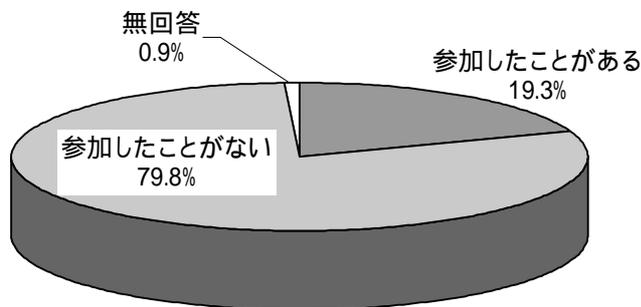
里山における環境教育が「必要である」と答えた299人にその内容について尋ねたところ、「小川やため池、水路でのメダカやホタルなどの水辺の生き物の調査・飼育・観察」(58.2%)が約6割で最も多く、次いで「雑木林でのカブトムシやクワガタなどの昆虫採集等、動植物の調査・観察」(45.2%)が4割台であった。

〈ここからは全員の方が回答〉

7 里山における活動への参加経験について

(1) 里山における活動への参加経験

問7(1) あなたは今までに里山における活動に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ)(回答者数:326、回答数:326)



里山における活動への参加経験

里山における活動については「参加したことがない」(79.8%)が約8割となった。一方「参加したことがある」(19.3%)は約2割であった。

〈問7(1)で「参加したことがある」を選んだ方のみ回答〉

(2) 活動に参加したきっかけ

問7(2) あなたが里山における活動に参加したきっかけは何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選んでください。(回答は2つまで)

(回答者数:63、回答数:105)

	回答人数
身近に里山があったから	23
行政の広報紙やホームページを見た	20
里山で活動する団体の広報紙やホームページを見た	18
里山に興味を持ち、自分で活動できるところを探した	16
参加している人に誘われた	13
学校や会社など、所属する団体を通じて	12
その他	3
合計	105

活動に参加したきっかけ

里山における活動に「参加したことがある」と答えた63人に活動に参加したきっかけを尋ねたところ、「身近に里山があったから」は23人、「行政の広報紙やホームページを見た」は20人であった。

(3) 参加した活動の内容

問7(3) あなたが参加した里山における活動の内容は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(回答はいくつでも) (回答者数:63、回答数:202)

	回答人数
里山祭りなどのイベントへの参加	30
里山歩きなどのレクリエーション	30
自然観察会、農作業体験などの環境学習、環境教育	29
雑木林での植林、下草刈り、間伐除去などの維持管理	26
雑木林や小川、ため池などでの生き物の調査・観察・保護	22
ごみ拾い、ビオトープづくりなどの環境、施設の整備	21
水田や畑での農作業	21
里山保全のための講習会や研修会	12
間伐材を使った炭焼き	10
その他	1
合 計	202

参加した活動の内容

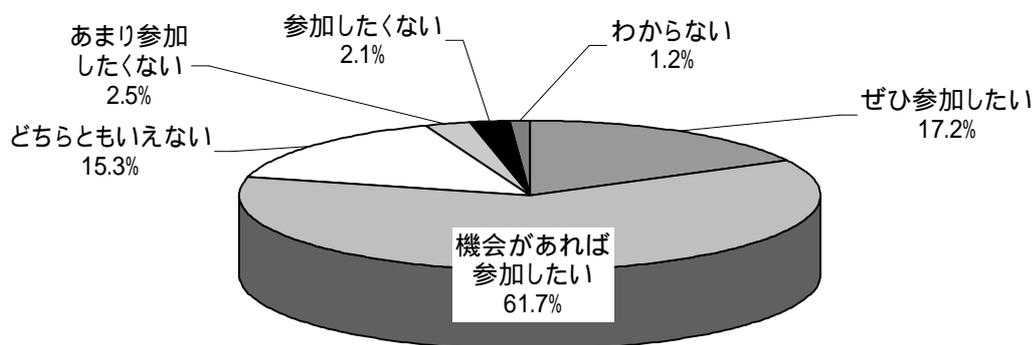
里山における活動に「参加したことがある」と答えた63人に参加した活動の内容を尋ねたところ、「里山祭りなどのイベントへの参加」、「里山歩きなどのレクリエーション」がそれぞれ30人であった。

ここからは全員の方が回答)

8 里山における活動への参加意向について

(1) 里山における活動への参加意向

問8(1) あなたは今後、里山における活動に参加したいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(回答はひとつ) (回答者数:326、回答数:326)



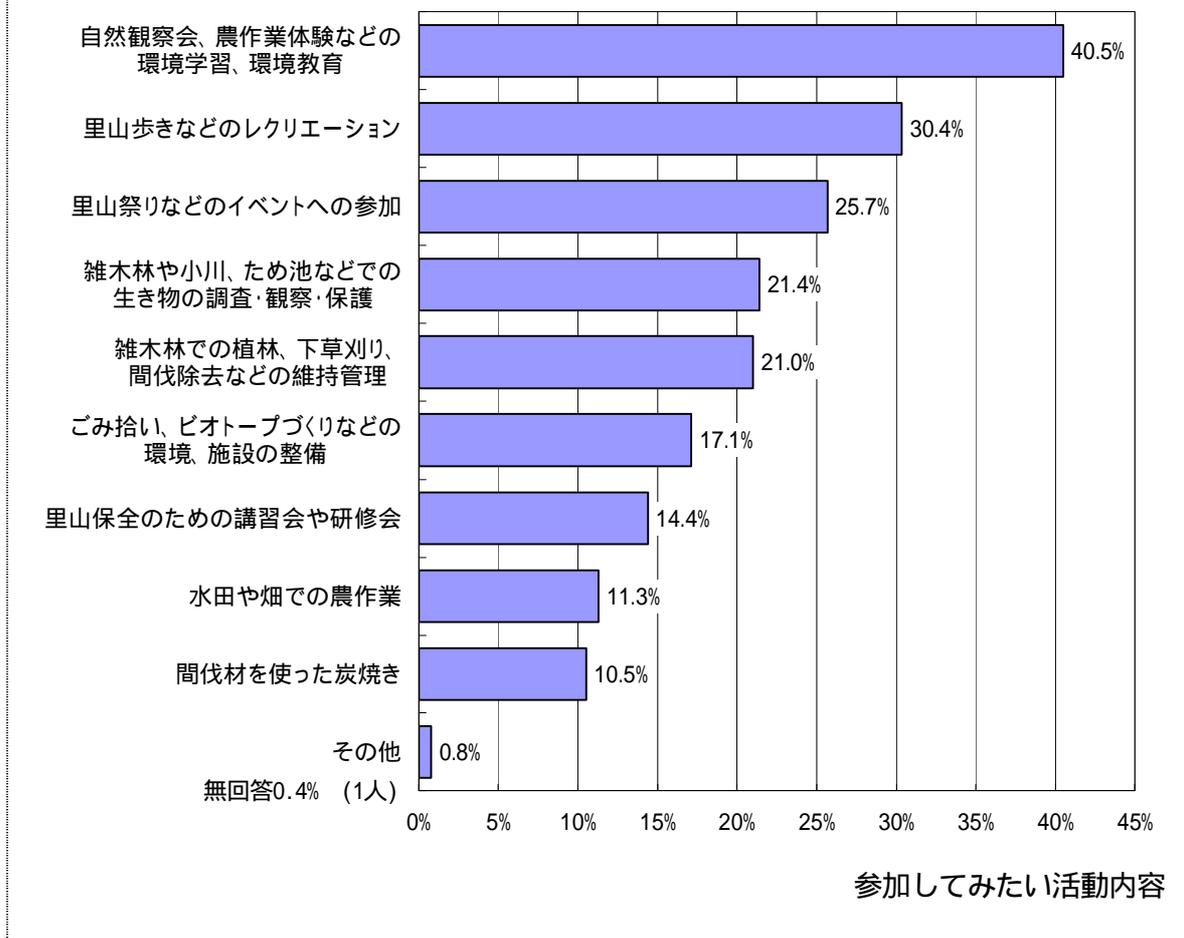
里山における活動への参加意向

今後の里山における活動について「ぜひ参加したい」(17.2%)と「機会があれば参加したい」(61.7%)をあわせた[参加したい](78.8%)は約8割となった。一方「参加したくない」(2.1%)と「あまり参加したくない」(2.5%)をあわせた[参加したくない](4.6%)は1割に満たなかった。

〔問8(1)で「ぜひ参加したい」または「機会があれば参加したい」を選んだ方のみ回答〕

(2) 参加してみたい活動内容について

問8(2) どのような活動に参加したいと思いますか。次の中から特にあてはまるものを2つ選んでください。(回答は2つまで) (回答者数:257、回答数:496)



今後、里山における活動に〔参加したい〕と答えた257人に、参加してみたい活動を尋ねたところ、「自然観察会、農作業体験などの環境学習、環境教育」(40.5%)が約4割、次いで「里山歩きなどのレクリエーション」(30.4%)が約3割となった。